

医療 新世紀

がんの進行で大腸が閉塞すると、腸管内に消化液やガス、便がたまる。腹がパンパンに張り、腹痛や嘔吐が起きて全身状態は急激に悪化する。従来、こうした患者には緊急手術が行われ、一時的に人工肛門を設けるを得なかった。だが、緊急手術では術後の合併症の危険性が高まる。高齢などで手術ができない患者もいる。そこで注

目されるのが、筒状の金網で閉塞部を押し広げる大腸ステント。症状を劇的に緩和し、人工肛門を回避して生活の質(QOL)を向上させる。昨年1月に保険が適用され、普及への取り組みが始まった。

保険適用 1年の注目療法

大腸閉塞にステント

世は3年前に大腸がんを発症した。抗がん剤治療を続けていたが病状は進み、腹膜にも転移。昨年5月、大腸が詰まり便が出なくな

カテーテル(外筒)に収まる。これを内視鏡の挿入部に通し、肛門から入れる。閉塞箇所を押し広げる。閉塞箇所から入れる。閉塞箇所を押し広げる。閉塞箇所を押し広げる。

過大な負担を強い心配がある。また、人工肛門の閉鎖には、いずれ再手術が必要になる。しかし、緊急手術に

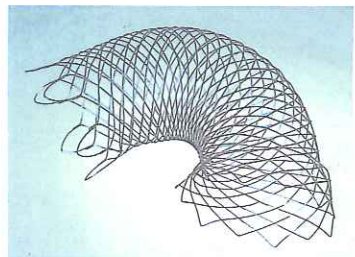
吐く。食べられない。動められたが受けたくなかった。インターネットでステントを導入している東邦大医療センター大腸病院(東京都目黒区)を知り、すぐ大腸ステントは直径20センチの筒形をした形状記憶合金の網で、長さ30・3センチの細い

は大量の便による手術の汚染や、全身状態の悪い患者に「大腸ステント」は、液体やガスは出ても固い便は出す、効果は限定的だ。大腸ステントは、閉塞症状を改善できる。Aさんのケースはこれに当たる。

安全な普及を
同病院は1993年以來、がん切除前の大腸ステント留置を臨床研究として150例以上実施、9割超の患者で閉塞症状解消に成功したという。また、転移でもはや治療が望めない終末期の患者や、高齢で手術に耐えられない患者も、体の負担を避けつつ閉塞症状を改善できる。Aさんのケースはこれに当たる。

症状和らげ人工肛門回避

もある。まれにステントで臓器に穴が開いてしまう「穿孔」が起きることだ。昨年11月、厚生労働省は食道、胃・十二指腸、大腸のステントについて、国内で計53例の穿孔事例が発生、うち16例が死亡したとして、ステント使用の可否を慎重に検討するよう呼び掛けた。「大腸ステントの恩恵にあずかるには安全への十分な配慮が必要。外科と内科の協力が欠かせない」と香田さん。自らが代表世話人を務める「大腸ステント安全手技研究会」(会員約170人)を通じ、安全な使用法の普及を目指していく考えだ。



ボテイ提(ボテイ提トエンパントイジャントイジャック大トフ供)